

### 2005年出土の木簡



(植 固)

（一三四七）に小田島長義によつて築城されたと伝えられる。その後、応永二年（一三九五）には東根頼高天童合戦後には里見景佐が城主となつた。江戸時代初

山形・小田島城跡

期にも最上氏の支城として里見氏が城主を務めたが、元和八年（一六二二）、最上氏の改易に伴つて、城は山形藩預かりとなり、寛文元年（一六六一）に廃城となつた。

2 1  
所在地 山形県東根市大字東根字本丸ほか  
調査期間 二〇〇〇年(平12)四月一~一〇〇一

調査期間  
二〇〇〇年(平12)四月一〇〇一年二月

卷之三

貴亦の重頭  
成官亦

5  
貴跡の種

6 遺跡の年代 縄文時代～近世

遺跡の年代 繩文時代

小田島城跡は、白水川扇状地に張り出した舌状の丘陵地の先端部に立地する。本丸及び二の丸の一部には、現在東根市立東根小学校が建っている。

五十七番札場のものが多い。普光寺は「自然の沼」、「自然の寺」といはれていた。人工の沼で、本丸と二の丸の一部を囲む堀として機能していた。沼の北岸、西の三の丸に位置する龍興寺（中世には普光寺）境内には、正平一年（一三五六）の年号が記された「普光寺の梵鐘」がある。また、付近には龍神神社があり、城内の宗教的な空間であつたことがわかる。

8 木簡の釈文・内容

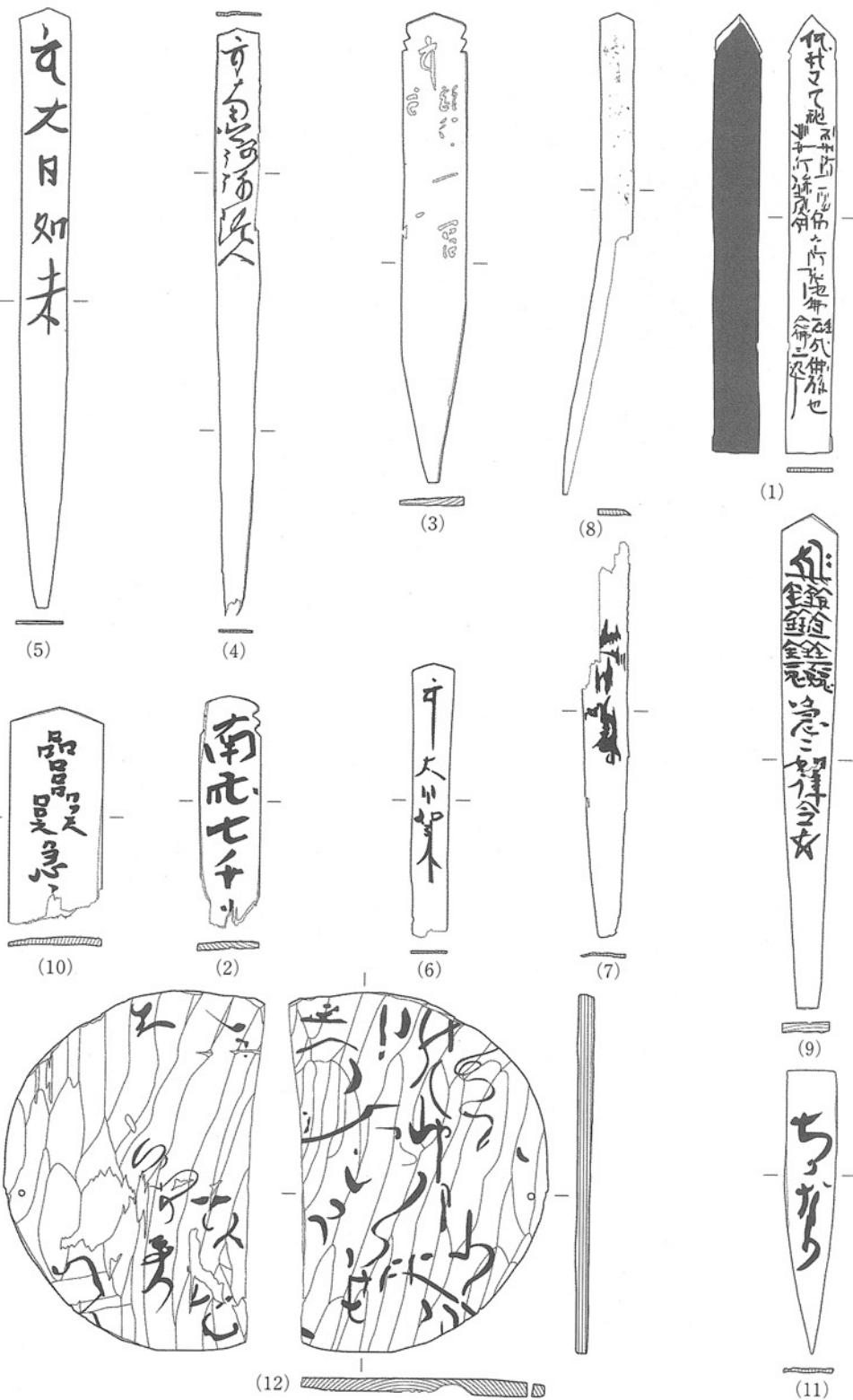
(1) **〔キヤカラバア〕** **阿彌陀是釋迦** **〔キヤカラバア〕** **南無阿彌陀仏** **〔キヤカラバア〕** **南無阿彌陀仏** **〔キヤカラバア〕** **成仏願也** **〔カカシカカシ〕** **南無阿彌陀仏** **〔カカシカカシ〕** **南無阿彌陀仏** **〔カカシカカシ〕** **念仏三才** **〔カカシカカシ〕**

(1) 「阿彌陀佛」南無阿彌陀仏 南無阿彌陀仏 成仏願也  
「阿彌陀佛」南無阿彌陀仏 南無阿彌陀仏 成仏願也  
「阿彌陀佛」南無阿彌陀仏 南無阿彌陀仏 成仏願也

191×21×1.7 061

(2) 「南無七千

(125) × (27.5) × 3.1 06:



- |      |                             |                    |
|------|-----------------------------|--------------------|
| (3)  | 〔(ペン) 南無阿弥陀人<br>〔(ペン) 大日如来〕 | 207×27.5×3.7 061   |
| (4)  | 〔(ペン) 大日如来<br>〔(ペン) 大日如来〕   | 265×21×1.1 061     |
| (5)  | 〔(ペン) 大日如来<br>〔(ペン) 大日如来〕   | (120)×18×1 061     |
| (6)  | 大日如来<br>〔(ペン) 大日如来〕         | (175)×19.5×1.5 061 |
| (7)  | 〔(ペン) 大日如来〕                 | 213×14.5×2.5 061   |
| (8)  | 〔(ペン) 大日如来〕                 | 217×25×3.8 051     |
| (9)  | 〔(キリーグ) (符籙) 急々如律令★〕        | (96)×40×3.35 019   |
| (10) | 〔(符籙) 急々如律令★〕               | 126.5×22.5×2 051   |
| (11) | 「ちかなり」                      | 径159×厚7 061        |
| (12) | ・「[ ]」                      |                    |
|      | ・「[ ]」                      |                    |

ある。(9)は圭頭を呈し下半は先細りになるが、下端部は平らである。

(10)は圭頭を呈し下端部は欠損している。(11)は上端が平らで下端部が尖る。「ちかなり」は人名と考えられる。(12)は曲物底板で、表裏両面に多数の文字が書かれるが判読できなかつた。

なお、木簡の釈読にあたつては、山形大学の三上喜孝氏のご教示を得た。

9 関係文献

（財）山形県埋蔵文化財センター『小田島城跡発掘調査報告書』（山形県埋蔵文化財センター発掘調査報告書一三一、二〇〇四年）

(高桑  
登)

〔**戒**(符籙)急々如律令☆〕  
〔**々々**〕  
217×25×3.8 051

〔(符籙)急□〕 (96)×40×3.35 019

「ちかなり」

一七  
大  
な  
」

〔二二〕

「□□」 159×厚7 061

上端を呈し、下端は平らである。裏面は上端が面取り状に削

(1)は圭頭を呈し、下端は平らである。裏面は上端が面取り状に削られ、一面にスキ漆が塗られる。(2)(3)は圭頭を呈し左右に二ヵ所ずつ切り込みがある。(3)は墨が失われているが、文字部分が浮彫状に遺存する。(4)～(6)(8)は圭頭を呈する。(8)は墨痕が薄く判読が困難で